



為石小学校の合言葉 「ためし 最高！ ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



ためし

授業者 労働者 保護者

名古屋大学の教授である内田良先生の言葉です。

私たち教職員を指し示す言葉には3種類あるという意味です。

「授業者としての教職員」はとても分かりやすいと思います。

教員は、8時15分から15時15分の7時間は「授業」をしています。労働時間は7時間45分ですので、9割以上は「授業」ということになります。

労働時間	7時間45分
授業時間	7時間 (含休憩時間45分)
授業準備	30分
残り時間	15分

「労働者としての教職員」を考えるとすれば。この四角の中を指し示すのだと思います。

埼玉地方裁判所は、以前の判例で「各時間の授業準備は5分程度」としています。残り45分の中の30分は授業の準備にあれば、その他の業務時間は15分となります。

もちろん会議もありますので、教員は授業準備時間を削って、会議に参加する

ことになります。

授業準備は結局時間外に行なうことが常態化するのは、このためです。

多くの学校では、教員の授業準備時間の捻出のために、日課表を工夫せざるを得ないのでです。

3つめの側面は、「保護者としての教職員」です。

最近若手の教員が増えて、子育てをしながら仕事をしています。

もちろん保護者ですので、我が子が熱を出せば迎えに行くこともありますし、学校でトラブルを起こせば呼び出されることもあります。教員といえども一人の保護者でもあるのです。

私も小学生の保護者だった時代もあります。放課後我が子を連れて、他の家にお詫びに行ったこともあります。学校のガラスを割った弁償をしたことあります。

こう考えると、私たち教員も多くの保護者の皆さんと同じ立場だということです。

互いの立場を尊重しながら、子どもの現実の姿を客観視しつつ、協力して子育てをする同士でありたいと思います。

HPはこちら



二次元コード読み取り

「カラー版は、

ホームページでご覧いただけます。」

